

お金と宣教活動

2010年10月10日 アシェル・イントレーター

お金と宣教活動の関係はとても慎重に取り扱われるべきものです。いくつかの問題を見てみましょう。

何を主とするか

私たちは、お金を得るための宣教活動を行いません。イエシュアは語られました。「**神にも仕え、また富(マモン)にも仕えるということはできません。**」(マタイ 6:24)。もちろん、主のみ働きのためにお金は必要ですし、神はそのことをご存じです。主は与えて下さいます。私たちは決して心配しないことです(マタイ 6:25)。主にご奉仕する私たちの動機は利益を上げることではありません。

訳注: マモン: 「マンモン」や「マン」とも発音し、行き過ぎた拝金主義や強欲を表す。ラテン語は「マンモン」ギリシャ語は「マモナス」シリア語では「マモナ」。英語の新約聖書では、マタイ 6:24 の「富」は「マモン」と書かれている。古代において「マモン」という神は存在せず、当時のヘブライ語・アラム語の「富」という言葉から来ている。Jewish Encyclopedia “Mammon”、Wikipedia English “Mammon”より引用。

商取引ではなく

それゆえ、取引される商品として神のみことばや聖霊の油注ぎを取り扱ってはなりません。それらは商取引ではないからです。「**私たちは、多くの人のように、神のことばに混ぜ物をして売るようなことはせず、真心から、また神によって、神の御前でキリストにあって語るのです。**」(Ⅱコリント 2:17) 私たちは忠実な管理人であり、私たちの仕事の対応において責任あるビジネスのプロとして行動しなければなりません。神の力を何か売れるものとして見てはいけません。「ペテロは彼に向かって言った。「**あなたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れようと思っているからです。**」(使徒 8:20) 神の恵みの表れを、献金を得るための策略として操作する巧妙な能力は、その根から悪なのです(Ⅰテモテ 6:10)。

与える信仰

信仰にあって私たちが成長すると、他者を支援するためにもっと与えることができるよう、神は、私たちに主を信頼するよう教えます。イエシュアはわざと弟子たちをテストするような状況に置かれました。そこには 5,000 人の男に、さらに女性と子どもたちがいました。人々は食べ物が必要としていました。イエシュアは弟子たちに言われました。「**しかし、イエスは言われた。『彼らが出かけて行く必要はありません。あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。』**」(マタイ 14:16) 神は彼らに対し、もらう者から与える者へ、困窮者から必要をもたらす提供者へと、彼らのアイデンティティを変えるよう要求されました。そこには信仰における超自然的な供給があります。

最近私は、私たちの宣教活動の必要のため、メンバーたちが与えることができるように、神は私の信仰を抑えておられる感じがします。祈りの後、私は彼らに言いました。「今から信仰を持って、与え始めなさい。」これは弟子訓練の一部です。私たちが与えることを学ぶと、神が与えて下さるのです。弟子たちが 5,000 人に食事を与えた時、イエシュアはすべてのパンくずを集めなさいと命じられました。そこには 12 のかご一杯の残りものがあり、弟子一人につきかご一つと十分な量がありました。神の経済は惜しみなくたくさん与えますが、その経費はつつましいのです。

税金を支払う

政府に税金を支払うことはとてもお金がかかるもので、時々神のお金を無駄遣いするようにも見えます。しかし、私たちは神に対する信仰の一部として、税金を支払うよう命じられています(ローマ 13:6)。税務サービスは、ある個人がたくさんのお金受け取ることで悩まされるものではなく、その反対に、彼らは人々の収入の何パーセントかを必要としているだけなのです。

イエシュアは、神殿の宗教税を支払うため、お金を魚の口から取り出すという超自然的な方法でお金を受け取るよう、ペテロに指示を出しました。(マタイ 17:27)。主はまたすべての人々に政府に世俗の税金を支払うように指示しました。「**それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。**」(マタイ 22:21)私たちは神とカイザルを区別しなければなりません。お金を持っている人々がより霊的であるとは限りません。その一方で、私たちはお金に対して過度に霊的な意味を付与してはなりません。私たちは請求書の支払いをし、税金を払います。ラビにはこのような言葉があります。「**パン(小麦粉)がなければ、トローラーはなく、トローラーがなければパンはない**」(Pirke Avot 3)

記録する

リバイバルと豊かさの歴史のある時期において、すべての経費を記録することは必要ではなかった時がありました(II 列王記 22:7)。しかし、現在この世の中において、多くの疑惑や資金的な圧迫に満ちています。私たちは正しく記録することに熱心でなければなりません。そのプロセスは誠実さを表すものです。「**私たちは、この献金の取り扱いについて、だれからも非難されることがないように心がけています。それは、主の御前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。**」(II コリント 8:20-21)私たちは倫理性を神のみ前にだけでなく、人々の前にもきちんと見せなければなりません。

気分を害することのないように

ユダがイエシュアを裏切った一つの理由は、ベタニヤのミリヤム(訳注:マリアのヘブライ表記)がイエシュアに高価な香油を注いだことです。彼は、それは無駄遣いだと思いました。彼は気分を害した

のです(そして、彼自身お金を盗んでいました)。この立腹が、彼の裏切りを引き起こしました(マタイ 26:14)。あなたがたも同じような罠に陥らないようにしなければなりません。

比較しないこと

給与や福利厚生を比較すると嫉みや怒りを引き起こします。「なぜあの人は私よりももっともらっているのだろうか。私は彼よりもっと働いているのに。」イエシュアはこの問題について、雇われた労働者のたとえで語りました。ある者は長く働きました。彼らはもっとお金がもらえるものと期待していました。彼らはもっともらえなかったため気分を害しました。イエシュアは言われました。「しかし、彼はそのひとりに答えて言った。『[友よ。]私はあなたに何も不当なことはしていない。あなたは私と一デナリの約束をしたではありませんか。自分のものを自分の思うようにしてはいけないという法がありますか。それとも、私が気前がいいので、あなたの目にはねたましく思われるのですか。』(マタイ 20:13、15)「私はこれにふさわしい」という態度は、主へのご奉仕に雇われた時、適切ではありません。私たちがあるものは、主の恵みによるものです。悔い改めの一つの側面は、今の収入に満足することなのです(ルカ 3:14)。

諸国の富

聖書の中には繁栄に関する驚くべき約束があります。また、「**諸国の富**」が私たちのもとへやってくる(イザヤ 60:5、60:9、60:11、60:16、61:6、ゼカリヤ 14:14)という預言すらあります。なぜ神は諸国の富を私たちのもとにもたらすのでしょうか。私たちが豪華な生活を送るためではありません。諸国の富は、諸国に福音をもたらすために私たちのもとにやってくるのです。私たちの動機は諸国の富を得るためではありません、それを使うためです。私たちの望みは人々からお金を取り上げるのではなく、救いを与えるためなのです。私たちは与えるために、受け取るために、そして神の御国に対して、信仰を大きく広げなければなりません。